



拓殖大学学長・大学院 院長

渡邊 利夫 教授

<経歴>

1939年6月、山梨県甲府市に生まれる。慶應義塾大学卒業、同大学院博士課程修了。経済学博士。筑波大学教授、東京工業大学教授を経て2000年より拓殖大学国際開発学部教授。初代学部長。2005年に学長に就任。東京工業大学名誉教授。ODA総合戦略会議議長代理。日本総合研究所環太平洋研究センター理事長。山梨総合研究所理事長。アジア政経学会理事長(元)。国際開発学会副会長。第17期日本学術会議会員。日中友好21世紀委員会委員。NHK中央番組審議会委員。国際協力事業団(JICA)国際協力功労賞。

もう10年以上も前のことですが、2ヶ月にわたるバングラデシュでの農村調査から疲れ切って成田にもどり、成田エクスプレスに飛び乗りました。車内は高校生らしき一群に占領されていて座席はなく、致し方なく車中にたたずんでいたところ、よほど憔悴した中年男の姿に同情したのでしょうか、4人がけで座っていた1人の女子高生が席を譲ってくれました。礼をいって席に着くや、うとうとし始め、途中で目を覚ますと、3人の女子高生が中国での修学旅行の体験を愉快そうに語っていました。そのいかにも楽し気な語り口につい誘い込まれて、私も彼女らに二言、三言声をかけました。「修学旅行、中国にいったの?どこが一番面白かったかなあ。」「断然、万里の長城ですよ。中国人てすごいですよね。あんなもの人間の力で作るんですから。」「あなたたち、どこの高校生?」「拓大一高です。」拓殖大学に付属高校があることを私はその時初めて知りました。「ご親切、どうもありがとう。」といい残して東京駅で降りたのですが、何だか心が浮き立っていました。今どきの高校生であんなに気品のある子もいるんだなあという思いが私の気分を麗しいものにしてくれたようです。きっと子供を大切に育てている高校に違いない、と今知ったばかりの拓大一高のことを想像していたのです。まさか自分が拓殖大学国際開発学部の創設にかかわり、学長になろうなどは夢にも思いませんでしたけれども、人生には何かしら奇縁というものがあるようですね。

<著書>『成長のアジア 停滞のアジア』(東洋経済新報社 吉野作造賞)、『開発経済学』(日本評論社 大平正芳記念賞)、『西太平洋の時代』(文藝春秋 アジア太平洋賞・大賞)、『Asia: Its Growth and Agony, University of Hawaii Press.』など。また新境地を開くものとして『神経症の時代—わが内なる森田正馬』(TBSプリタニカ 開高健賞正賞)がある。近著に『アジア経済の構図を読む』(日本放送出版協会)、『中国経済は成功するか』(筑摩書房)、『種田山頭火の死生—ほろほろほろびゆく』(文藝春秋)、『現代アジアを読む』(PHP新書)、『海の中国』(弘文堂)、『私のなかのアジア』(中央公論新社)など。